

平成 30 年度 学校自己評価表（計画）

学校運営計画			
学校運営方針		学校の教育目標及び重点目標を実現するために、すべての教職員が協働し、支え合い補い合いながら、その持てる力を結集した学校運営を実現する。	
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標
<p>【成果】</p> <p>(1) 自己実現に向け、将来の目的を主体的に考えさせることができた。</p> <p>(2) 多様な履修形態による授業の利点を生かし、困り感のある生徒への寄り添った指導ができた。</p> <p>(3) いじめに対して全職員が「いじめを見逃さない」という強い意識で生徒の指導にあたった。</p> <p>(4) 特別支援教育の研修と実践を継続し、関係機関との連携により多様な生徒の自立・就労支援を一層推進できた。</p> <p>(5) 多様な生徒の実態に合わせたきめ細やかな指導・相談を実施し、卒業生全員が希望する進路を実現することができた。</p> <p>(6) P T A 活動の活性化を図り、従来に比べて充実した P T A 活動が行われた。</p> <p>【課題】</p> <p>(1) 生徒が主体的に調査し思考できるガイダンス授業を工夫する。</p> <p>(2) 学習習慣の確立と基礎学力の習得を目指した教科指導を研究する。</p> <p>(3) 生徒の規範意識の涵養を図る。</p> <p>(4) いじめ等の問題解決に向けたアサーショントレーニングを充実させる。</p> <p>(5) 未履修科目・単位不認定科目を出さない取り組みを行う。</p> <p>(6) 特別支援教育の一層の充実・推進を図る。</p> <p>(7) 生徒の進路実現を図るため、進路指導を一層充実させる。</p>		<p>(1) 単位制高等学校の特性を生かし、生徒の個性、能力を伸ばす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着 ○個に応じた教育の充実と進路実現 <p>(2) 特別支援教育を推進し、生徒の学びと自立を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラー・保護者・専門機関・地域との連携 ○学習のユニバーサルデザイン化の推進 <p>(3) 保護者が安心して子どもを託せる学校にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の自己肯定感を高め、互いを尊重する態度を育成 ○社会人としての資質の涵養、社会規範の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な履修形態や授業選択を通して、自己のあり方や生き方、将来への目標を学ぶ。 ・就職や進学の情報収集や研究を通し、自らの進路を切り開く力を身に付けさせる。 ・基礎学力の向上を目指し、授業方法の創意工夫を図る。 ・きめ細かく丁寧な教科指導を行い成績不振に伴う休学者や中途退学者の減少を図る。 ・各教科内容に興味・関心を持たせ、学習に対する意識を高揚させる。 ・進路相談の充実を通し、進路希望を的確に把握し、進学・就職指導を徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> ・単位制高校の特色を生かして「特色ある学校づくり」を推進する。 ・教育相談を充実させ、生徒の心の負担の軽減を図る。 ・特別支援教育を推進し、学校生活について困り感のある生徒の支援を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の規範意識を向上させ、地域住民の信頼を得る。 ・遅刻・欠席の防止を図る。 ・交通安全の意識を高める。 ・心身の健康を自己管理できる実践力を育成する。 ・生活環境を整える習慣を育成する。 ・積極的に情報を発信するなど、地域に開かれた学校づくりを推進する。
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
単位制高校の特性を生かし、生徒の個性、能力を伸ばす。	自己のあり方生き方、将来への目標を学ぶ。	社会人講演会や進路講演会を実施し、進路意識の向上を図る。	
		年次別に職場・上級学校見学を実施し、進路決定に役立たせる。	
		マナー学習により、T P O をわきまえた服装や言動・言葉遣い等を身に付けさせる。	
		同和教育講演会を実施し、人権意識や人権感覚の涵養を図る。	
		1 年次生を対象に薬物乱用防止講演会を実施する。	
	就職や進学の情報収集や研究を通し自らの進路を切り開く力を身に付けさせる。	各種検定試験や各種模擬試験を受験させることで、生徒に進学情報を積極的に収集させ、自己啓発の能力を高めさせる。	
		『科目選択の手引き』を利用し、積極的・計画的に学習する態度を養う。	
	基礎学力の向上を目指し、授業方法の創意工夫を図る。	各教科の学習目標を明確化することで、達成感を体験させる。	
		多様な履修形態（少人数授業、習熟度別学習、T T 授業等）の実施により、生徒一人ひとりを大切にしたいわかる授業を工夫する。	
	きめ細かく丁寧な教科指導を行い成績不振に伴う休学者や中途退学者の減少を図る。	単位制高校の特色を生かし、高等学校卒業程度認定試験、技能審査、定通併修、学校外における学修等の成果の単位認定や半期の単位認定を行う。	
		他校訪問や中高連携による情報交換をとおして、教職員の資質の向上を図る。	

		教職員・生徒の双方で、授業全体についての評価を実施する。		
	各教科内容に興味・関心を持たせ、学習に対する意欲を高揚させる。	各種検定試験を受験させることで、生徒の得意分野を伸ばし、自己肯定感を育む。		
	進路相談を充実させる。	進路指導の充実を図るため、年次団や外部機関等と密に連携し、計画的な進路指導を行う。		
		進路決定への意識啓発を図るため、総合的な学習の時間及び学校設定科目「ガイダンス」と連携した進路ガイダンスを実施する。		
	進路希望を的確に把握し、進学・就職・就労支援に向けた指導を徹底する。	進路希望調査により生徒・保護者の希望状況を把握し、面談等による意識付けに役立てる。		
		職場・上級学校見学、進路講演会、職業学習、適性検査等を実施し、生徒の進路意識の向上及び勤労観・職業観の育成を図る。		
		進学・就職意識を向上させるため、各種校外模試を計画する。		
		ハローワーク等の外部機関と連携して進路情報を適宜提供することで、生徒の進路希望の実現を図る。		
		就職希望者に対して、求人票の見方等の基本的指導を早期に行うとともに、個別面談や模擬面接を計画的に実施する。		
		専門機関と連携して、多様な生徒の学校生活及び卒業後の自立・就労に向けた支援を進める。		
	単位制高校の特色を生かして「特色ある学校づくり」を推進する。	生徒の興味や進路希望に応じた特色ある教育課程の編成を行い実施する。		
		年間計画の精選により、授業時数の確保に努める。		
		単位制高校としての学校行事を充実させる。		
		社会人講座を実施する。		
特別支援教育を推進し、生徒の学びと自立を支援する。	教育相談を充実させ、生徒の心の負担の軽減を図る。	スクールカウンセラーと年次団・養護教諭等が密に連携し、一人ひとりの生徒の理解に努める。		
		こまめに個別面談を行い生徒が自己実現するための方策を生徒と共に探ることで、人間関係のトラブル防止や学校適応促進等を図る。		
	特別支援教育を推進し、学校生活について困り感のある生徒の支援を進める。	学校生活全般において、全ての生徒が利用しやすく、全ての生徒に配慮したユニバーサルデザイン化の取組を推進する。		
保護者が安心して子どもを託せる学校にする。	生徒の規範意識を向上させ、地域住民の信頼を得る。	身なり、挨拶等、高校生としての態度や服装の指導を徹底する。		
		通学路等での立哨指導を適宜行うことで、駅の使用や登校下校時の歩き方等、公共の場でのマナーの向上を図る。		
		生徒の安全・安心を確保するために、校舎内、校地内等の巡視を計画的に実施する。		
		年5回いじめアンケートを実施するとともに、個別面談等を通し、いじめ等の未然防止に努める。		
	遅刻・欠席の防止を図る。	遅刻と欠席の防止のため、HR指導等の充実を図る。		
	交通安全の意識を高める。	交通安全講話と原動機付き自転車の実技指導を実施する。		
	心身の健康を自己管理できる実践力を育成する。	年次ごとの性の講演会の実施、保健だよりのタイムリーな発行、個別の保健指導の充実を図り、心身共に健康な生活を送る実践力を育てる。		
		心の健康問題を抱える生徒に対して、学級担任や関係職員と連携を図り、相談活動と支援の充実を図る。		
	清掃環境を整え、清掃活動に積極的に取り組む態度の育成を図る。	清掃用具等の清掃環境の整備、ゴミの分別の徹底、清掃活動に積極的に取り組む態度の育成を図る。		
	地域に開かれた学校づくりを推進する	学校視察等を受け入れ、学校の公開を図る。		
		ボランティア活動や地域行事に積極的に参加する。		
		中学生体験入学の実施、学校説明会で単位制高校のPRを行う。		
		P T A、同窓会や地域と連携した文化祭を実施する。		
		P T A総会の内容を充実させることで出席者の増加を図り、学校の取組みを理解してもらう。		
		P T A広報誌「西古志」を年3回発行し、町内全戸に回覧する。		
		行事計画や活動報告などを掲載するホームページの充実を図る。		
成果				総合評価

